

プロローグ

愛着障害、愛着の問題についての正しい理解の大切さ

筆者は、今も連日、育児・保育・教育・福祉・医療などの発達支援の現場に足を運ばせていただきながら、愛着障害、愛着の問題にかかわる事例が増え続けていると実感しています。そして、それは、以前から「愛着障害は、親の養育を受けられない福祉施設で育つことも、虐待のこともに限る」と思われていたことは誤解であり、通常家庭に愛着の問題を抱えることもが急増しているという現実を示しています。

ところが、まだまだ、愛着障害への理解がきちんとされておらず、愛着障害と発達障害との峻別がしっかりされないため、どの現場においても、その支援についての混乱と困難さが解決されないままの状態になっています。

その原因には、いまだに、心理学・精神医学・発達支援の専門的学界において、愛着障害や愛着そのものについての共通理解が得られていないということがあります。そのため、愛着障害を抱える子どもを支援する現場で、その支援に対して適切なアドバイスがなされず、不適切な支援

によって改善せずに困り感が増大しています。その上、その支援のやり方がよくないと言われて、支援者も傷つき苦しんでいるのが現状ではないでしょうか。そのような現状を何とかしたいという思いがますます強くなっています。

愛着障害、愛着の問題、そして愛着を、どのようにとらえてはいけないのか、どのようにとらえることでこどもの問題がよりクリアに理解でき、その支援がうまくいき愛着修復が可能になるのか、まずこの点を明確にすることから本書をスタートしようと思います。そして、第2章以降では、事例を紹介しながら理解と支援のポイントを明らかにしていきます。

*

筆者が大事にしてきたのは、古い理論にしがみつくのではなく、現場の状況に即した理論の再検討と修正です。それこそが、愛着の視点からの適切なこどもの発達支援、こころの支援につながるかと信じるからです。

現場に足を運ばない専門家に、愛着の問題への正しいアドバイスはできないと思います。いつも現場でこどもとかわかっておられる皆さんこそ、愛着の問題に気づき、こどもを支援することができます。そして、愛着という、こころの確かな基盤の問題こそが、こどもの発達のさまざまな困難の原因となっているのです。

さあ、ご一緒に確かめていきましょう。